

タッチタイプ・ワープロ・電子辞書

武藤建一

筑波大学非常勤講師（情報処理）

作文の力をつける助けになるものとして、ワープロの使用、それを十分に使うためのタッチタイプの習得、文章を推敲するための電子辞書の利用、さらに、作ってほしい電子辞書について述べます。

情報処理教育

私は筑波大学で情報処理の実習を担当しています。いつもはじめの授業で、中学や高校のコンピュータの授業では何を習ったかと学生に聞きます。以前は多くがプログラムやゲーム、お絵描きと、いかにもコンピュータらしいテーマでした。つまり、初期のコンピュータ教育は特別なものでした。筑波大学でも昔は、情報処理教育でフォートランやベーシックのプログラムを主に教えていたので

す。ところが、最近は中学や高校でタッチタイプやワープロを習ったという学生が

多くなってきました。実用的な科目と認識されてきたようです。コンピュータマニアの先生ではなく、国語の先生が肩肘張らずに教える科目になりつつあります。これはコンピュータが日常の文房具、つまり文書を作るための便利な道具と考えられるようになった訳で、喜ぶべきことです。

もちろん、そうなったのはコンピュータのハードとソフトの能力が大幅に向上したことが主な理由です。ワープロでいえば、昔の和文タイプを叩いているような代物から、キー操作に慣れれば手書きより楽に文章を作れるまでに進歩したことです。

「キー操作に慣れれば」といったが、これは大切なことです。ちょうど小学校で鉛筆の握り方、文字の書き方を習うように、中学ではキー操作、つまりタッチタイプを習得すべきです。こういう単純な条件反射的な操作は、若いときの方が

効率よく学べます。それに、中学では英語の学習が始まります。アルファベットの入力ができれば、英語もローマ字入力の日本語もワープロで扱えるので、タッチタイプの練習をさらに魅力的なものします。

ワープロは作文や文章の推敲，それに、なによりも自分の考えをまとめるのに適した道具です。しかし、タッチタイプができないと、キーを捜すのに注意力と時間を取られ、自分の思考の流れをよどみなく指先に注ぐことができません。途切れ途切れに考えていたのでは、能率よく構想をまとめることもむつかしく、作文が楽しくありません。つまり、タッチタイプは「作文」にワープロを使う基本です（「清書」は違うでしょうが、これについてはここでは考えません）。中学の頃にタッチタイプを身につけ、ワープロを駆使して自分の考えをまとめ、正確に読み手に伝える訓練をするべきです。習字はタッチタイプの練習に、綴り方教室はワープロによる作文の授業にするべきです。

大学の情報処理実習でも、タッチタイプやワープロの紹介はしているけれど、本来これらはもっと早い時期に習得しておくべき技能です。

電子辞書

それら中学や高校、および大学の教育用コンピュータには作文の助けをする電子辞書が入っているべきです。それらは推敲の楽しさを経験し、辞書を引く習慣をつけるのに役立ちます。

最近のワープロには同音異義語を表示する機能があるけれど、これは漢字を選ぶだけです。もっと作文に便利な電子辞書を搭載してほしいと思います。

胸ポケットに入る大きさで、岩波の広辞苑と、大修館のジーニアス英和・和英辞典または研究社の新英和・和英中辞典が一緒になった電子辞書をいくつかのメーカーで作っています。コンピュータに搭載する辞書の方が、挿絵や諸表も入っていて便利でしょうが、この携帯用電子辞書があれば、ほぼ用が足ります。別にコンピュータに辞書が載ってなくても構わないのです。むしろ、どこでも使えるので、この方が便利なこともあります。

類語辞典の電子化

電子辞書の内容に関して要望があります。広辞苑は簡単な百科事典のようにも引けるし、信頼して使える辞書の一つです。しかし、文章を書くときは類語辞典、たとえば角川の類語新辞典、が役に

立ちます。ところが、類語辞典の宿命として、言葉を引くときはその言葉の意味別にいくつかに分かれた類語のグループのページを見ることとなります。言葉を引き、次に類語のグループのページをあけてと、目的を達するまでに少なくとも二度ページをめくる必要があります。これは紙の辞書なら面倒だけれど、電子辞書ではジャンプをするだけで済みます。類語辞典こそ、電子化することでその機能を十分に発揮する辞書です。

英語の類語辞典は既にカシオ、キャノン、セイコーインスツルメントの電子辞書に載っています。日本語の類語辞典もぜひ電子化してほしいのです。角川の類語新辞典はよい辞典ですが、参照ページ番号や説明の文字が小さく老人には読みにくいのも電子化してほしい理由の一つです。

日本語活用辞典の作成

もっと強い要望は作文における利用を目的とした辞書、日本語活用辞典を作してほしいことです。言葉と言葉のつながり方、用法の説明が読める辞書です。たとえば、ある名詞にふさわしい形容詞、ある動詞にピッタリの副詞、ある名詞を目的語とする適切な動詞などを、表現したい状況に応じて選ぶことのできる辞書

です。これが私の望む日本語活用辞典の機能です。素人にはその程度しか思い浮かばないけれど、専門家はもっと広い視野から、より便利な辞書を作ってくれるだろうと期待します。

もちろん、はじめから電子辞書として辞書を設計すべきです。電子辞書の機能を最大限に利用して、引きやすい辞書を作してほしい。紙の辞書を出版するかどうかは、その後の話です。

外国語としての日本語

大学内で外国からの留学生を大勢見かけます。かれらが日本語の習得にどんな教材を使っているかは知らないけれど、この日本語活用辞典はかれらにとっても便利な辞書になるはずです。

これは話が逆かも知れませんが。英語を外国語として学ぶ人のための辞書を作ったら、英語を母国語とする人にも好評だったとの話があります。日本語活用辞典も、外国語として日本語を学ぶ人を対象に作れば、日本人にとっても便利な辞書になるでしょう。

日本語力

マスコミを通して読んだり、聞いたりする言葉には、送り手の気分は分かるが、内容が乏しいものをしばしば見受け

ます。これは言葉のインフレで、日本語から力を奪うものです。

しっかりとした文章を作り、このインフレを阻止するには、日本語、英語を問わず、同じ能力が必要です。それは自分の考えを論理的に展開する能力です。明解な英語の論文を書く人は、日本語でも分かりやすい文章を書きます。語彙や文法をどれだけ知っているかという問題はあっても、その奥にあるこの能力は何語を使うかによりません。逆にいえば、日本語で作文の練習をすることで、英作文の練習もしている訳です。

そのまた底にあるのは、自分の考えを分かりやすく説明しようとの「意志」の有無です。その意志のない限り、ワープロで構想をねろうが、電子辞書を引いて表現を推敲しようが無意味です。文法的に正しい作文はできても、「言語明晰、内容空疎」な日本語になります。そのような日本語が溢れていることが、日本語に力がなくなり、ひ弱になったと感じる原因でしょう。実は日本語がひ弱になったのではなく、われわれの精神がひ弱になったのです。

おわりに

大言壮語はこれくらいにして、本題に戻りましょう。

言葉に親しむのに、ワープロと電子辞書はよい文房具です。類語辞典や日本語活用辞典が入った電子辞書があれば、的確な表現を選ぶのが容易で、文章を書くのが楽しくなるでしょう。これは、間接的ですが「日本語力」を身につけるのに役立つでしょう。

電子辞書はまだワープロほど普及していないでしょう。私は、「皆さん、電子辞書はよく出来たオモチャです。ぜひ使ってみてください。面白いですよ。」と言いたくて、そして、もっと楽しく便利に使える電子辞書が現れることを願って、この文章を書いています。

最後に、私の提案をまとめると：

- 1) タッチタイプとワープロを中学で教えましょう
 - 2) 電子辞書を活用しましょう
 - 3) 類語辞典を電子化してください
 - 4) 日本語活用辞典を作ってください
- です。1) は中等教育関係者への、2) はこの小論の読者の皆さんへの呼びかけです。3) は主に電子辞書のメーカーへの、4) は辞書編纂関係者への要望です。

(むとうけんいち 情報処理教育)